

視察調査・研修会等報告書

令和4年3月31日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 福田洋一 様

議員氏名(小川 亘)



研修・視察年月日	令和4年3月28日～3月31日
研修会場・視察先	福岡県福岡市 リファレンス駅東ビル 京都府京都市 メルパルク 京都
研修名・視察目的	地方議員研究会 セミナー
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	
参加議員(同行者)	なし
調査概要	理想の地方議会のために、必要なスキルを備えて、市民との関係を再度考える。人口減少社会において、人口が減ると何が問題なのか、また人口増加策や東京一極集中と地方との関係。 空き家対策の現状と課題。空き家の実態調査の把握の重要性。空き家に関する様々な施策の紹介。 政府の方針と自治体との関係、感染症の克服と経済好循環。 デジタル庁と自治体 DX。子ども庁と少子化の克服、地方財政改革と見える化改革。With コロナと自治体財政において、コロナ禍における財政調整基金の活用例、議会から仕掛ける増額補正の事例。議会の機能を再確認して、コロナ対策時に議会はどのように動いたのか等、国と地方の関係や、これからの方向性について研修を受けた。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	新型コロナウイルス感染症で、国も、地方自治体でも大きく影響を受けた。国の方針(骨太の方針)を踏まえて予算編成されるが、それを基に、事業が出て、各自治体への補助事業なども決まる。人口減少の中、小山市でも事業の再編成が必要と感じた。 空き家対策に関しては、国が示した基準に基づいた実態調査が急務である。小山市でも令和8年度までの計画改定が示されている。 人口減少がもたらす影響が今後小山市にも出てくる。2045年には人口152,556人と予想され、高齢者人口増により、医療介護需要も142ポイントの上昇予想が出ている。それに向けて準備も必要とされる。

視察調査・研修会等報告書

新型コロナウイルス感染症による、小山市への影響だが、国が示す方針のカーボンニュートラルへの取組を小山市が自治体としてどのように進めていくか、またデジタルトランスフォーメーションへの転換への遅れが出る可能性がある。小山市でも成長分野での企業誘致や雇用の確保などの補助が必要と感じた。

また、コロナ感染症対策によって国も、小山市も大きく影響すると思えさせられた。